

技術情報

ホワイトを3Pホワイトに置き換える?! パステル系メタリック塗装時のポイント

スズキZGFミルクティーベージュMなどに代表されるパステル系メタリックカラーのボカシ塗装で、一番多く寄せられるお悩みの声は「ボカシ際が黒ずむ」というものです。原因は配合されているメタリックベースの浮き沈みによる局部的ムラではないかと考えられます。

今回は、ある方法を用いることでかなりの改善がみられましたのでご紹介したいと思います。

その方法とは、**配合データに使用されている「ホワイト」を「3Pホワイト」に置き換えるというものです。また配合にはないミキシングクリヤーも10~20%程度追加して調色します。**

この配合で作成した塗料でボカシ塗装を行うと、色ギメをしながらボカシ塗装を行っても、ボカシ際の黒ずみはかなり抑えられます。

(ただしカラーチップのデータとは配合が異なりますので、調色の際は、補修塗装時と条件を揃えてあらたにテストピースの作成が必要です。)

下記に塗装時のポイントも掲載いたしますので、ぜひ一度お試しください。

《パステル系メタリックカラーのボカシ塗装 チェックポイント!》

①シンナーの希釈率は80%で

通常2コートMのアクロベースシンナーの希釈率は40~60%の推奨ですが、この塗色につきましては80%をオススメします。ミキシングクリヤーの追加と同じく、敢えて隠ぺい性を下げることによりボカシ塗装をし易くする方法をとっています。

②カラーサフを利用して塗装回数の削減を

上記の通り隠ぺいは下がりますが、下地に近似色のカラーサフを塗装することによりカバーできます。新発売のウルトラサフファインプラスと内板用マルチカラーの組み合わせがオススメです!

③ボカシ剤は1ランク遅いシンナーで希釈

アクロベースボカシ剤は通常原液で塗装しますが、今回は1ランク乾燥の遅いアクロベースシンナーを1:1(同量)で希釈したものをボカシ範囲に塗装します。ボカシ際での色ノボリのコントロールがし易くなるようです。

④ボカシ剤はサフ面に塗装しない(サフ際より外側に塗装する)

ボカシ剤を塗装する範囲については色々なご意見があると思いますが、プラサフ面にボカシ剤を塗装すると溶剤が中にこもり易くベース塗装時の溶剤「抜け」が一定しない傾向になるようです。

以上、いくつかのポイントをあげましたが、基本的にはゆっくりとエアブローしながら色決めと同時にボカシしていくイメージで綺麗にボカシ事ができます。(尚この塗装方法及び調色データはメーカー発表のものではありませんので、あらかじめご了承ください)



*写真はスズキ ラパン ボデーカラー-ZGF

スズキZGF 参考配合データ

カラー工房10を置き換えた場合(注意!見本と色味は変わります)

原色 No	アクロベース・原色名	配合量
0711	メタリスターブライツ細目	65
0715	メタリスターブライツ	191
0466	ベネチアンレッド	139
0559	チンチングブラック	9
3120	オーカー	96
0112	オキサイドエロー	36
3026	3Pホワイト	427
1732	シロックス	37
1731	ミキシングクリヤー(配合外追加)	130

更にワンポイント!
メタリックベースにコスモ系を使用すると光輝感がアップします!

スズキZGF オリジナル配合データ

原色 No	アクロベース・原色名	配合量
0777	メタリーコスモ	125
0778	メタリーコスモ荒目	210
0466	ベネチアンレッド	95
0559	チンチングブラック	3
3120	オーカー	65
0112	オキサイドエロー	35
3026	3Pホワイト	310
1732	シロックス	17
1731	ミキシングクリヤー	140

*上記 カラー工房11に色味の雰囲気は近いですが光輝感がです。

追加のワンポイント!

あと1回スプレーしたら完全に隠ぺいするなと思ったらセッティングを少し長めにとりボカシ際をエアブロー&タッククロス再度ボカシ剤を軽く塗装し色ギメと同時にボカシスプレーをします。テストピースを再現することをイメージして塗装回数の管理を行うことがとても大切です。